さくらやま便り

No.297 ●2019/6/15

〒241-0802
横浜市旭区上川井町1988
シャローム桜山　施設長 成瀬志津子
TEL. 045-922-7330

故郷信州の紹介と私の歩み

宮澤　武久

ご縁あってシャローム桜山でお世話になることとなり大変幸せです。部屋を見せていただいたり、三年位は様子をみて捨てるものを選べなど、貴重な体験を教えてくれるなど、皆様のご親切が身にしみます。

昭和九年三月臼田町(佐久市に合併)に生れ、北に浅間山まで広がる佐久平の水田養殖の鯉で育ちました。鯉こく、うま煮、あらいは母の自慢料理でした。西の八ヶ岳よりの小田切集落は一遍上人が踊り念仏を始めた所です。農村医学のメッカ佐久病院が町並みの中央にあり、手遅れの盲腸炎の父を救ってくれました。終戦の翌年隣町の旧制中学校に入学、四年生に井出孫六が居りました。小学校からの先輩です。学制改革で中、高六年間通学、その三年間は下級生が居らず校歌練習などシボラレ放しでした。嘉納治五郎の銅像のある大学で学んだ後、県立高校の教員となり母校にも六年間勤めました。

五十四歳の夏、妻が病死し、娘四人は社会人、大学生でしたので独身暮らしとなりました。二年後、従兄の紹介で再婚。一男二女の妻の子等と長野市市篠ノ井横田で生活。従兄は団体旅行で日本平から富士山を見ながら知り合った妻に私のことを売り込んでくれたようです。富士山は縁結びの神です。

七十歳まで県立高校、文化学園長野高校などで地理、世界史の講師をした後、隣組の農家から休耕地一反歩を借り、桃の古株を抜きながら野菜・果物など年間何かを収穫できる畑作りに挑戦。毎日雑草との戦いでした。横田は、木曽義仲が旗揚げして平家方の大軍を破った横田河原合戦場であり、上杉、武田の川中島合戦場の一部となった地です。城下町松代は、千曲川を挟んで近くです。七十八歳の春に、悪性の腸閉塞で入院手術し万死に一生を得ましたが、病院に駆けつけた娘たちの願いもあり、娘たちが住む京浜地方に思い切って転居する決心をしました。四年前に娘たちが探してくれた横須賀市船越町の十五階建てマンションです。横須賀は、民謡連盟の活動が盛んな町で、盆踊りや舞台発表も数多く、私も妻と共に参加しました。夫婦の絆を深めるため、妻が習っていた古典舞踊を私も一緒に習って二十年でしたから。

これからは横須賀にも増して魅力の多い横浜を歩き回ってみたいと思います。皆様方とのご縁を大切に、いつまでも若々しく天寿を全うしたいです。

社会福祉法人アドベンチスト福祉会
理事長交代のお知らせ

6月13日開催の評議員会・理事会で白石尚理事長の退任、新理事長には村本英邦が就任することが決議されました。

今後ともアドベンチスト福祉会へのご支援をよろしくお願い致します。

6月11日　入居者勉強会
～健康体操・ツボ押し～
講師は遠藤大輔さん（株）フレアス横浜青葉事業所
手足のツボを刺激して血流を良くする、左右の手で違う動きをすることで脳の活性化を促すなど、楽しい1時間でした

施設長より

ツバメもスズメも賑やかに、飛び交っていますね。どこから餌を見つけてくるのか、子どもたちをそれぞれにまるまると養い、巣立ちまで立派に子育てしています。私は、相鉄線、東横線、小田急線、横浜線、京王線など、いろいろなルートで通勤していますが、最近はどの駅でも、さまざまな鳥の鳴き声を放送しています。誰が提案したことでしょうか。群衆に押しつぶされそうなラッシュアワーのストレスも、鳥の声で随分なごみます。

会うは別れのはじめといいますし、さよならだけが人生だ、ともいいますね。私は、平成28年4月に、ひかりが丘地域ケアプラザから異動して参りましたが6月30日付で退職することになりました。シャローム桜山では、私もこういうふうに歳を重ねていきたいなぁと思う、すばらしい先輩の皆様との出会いに恵まれ、生き方のお手本を間近で学ばせていただきました。本当にありがとうございました。

これまでのご厚情を深く感謝するとともに、皆様のご健康をお祈りいたします。

7月からは、村本英邦が施設長になります。これからもどうぞよろしくお願い致します。

成瀬志津子

制作：高澤　守夫

さくらやま文芸

イラスト：金元　知子

おちこちの鴉姦し入梅（ついり）前　松謡

我が園と思えばいとし草を引く

ほととぎす二声三声雨やまず

梅雨に咲く花何やらん旅プラン

温泉（ゆ）の街の花見るプラン梅雨最中（さなか）

6月生まれの皆様
お誕生日おめでとうございます

佐藤　幸子様　鶴貝　敬司様

夢に見し
ゆうべの君が
かんばせの
美しかりき
ありし日のごと

大畑繁雄

～面白かったりびっくりしたり～

金元知子

何年も前のこと、ケアハウスのまわりを歩いてもうすぐケアハウスに着く頃に事務所の田中さんが帰る姿が見えた。

こっちを向いたので右手を振って「さよなら」の合図をしたら田中さんも手を振った。両手を挙げて「バンザイ」したら田中さんもバンザイした。両手をクルンクルン回したら田中さんもクルンクルンと回した。（田中さんはいい人だナァ、面白いナァ）と思いながらお辞儀をしたら田中さんもお辞儀をした。

道々、クスクス笑いながらケアハウスに入って行った。靴を上ばきに履き替えて玄関口の椅子に腰掛けて事務所を見ると田中さんが居る。本物の田中さんです。私に合わせてバンザイしたり、お辞儀をしたのは誰だったんでしょうねえ。

二千年に入居以来、田中さんには随分お世話になりましたが、これは恥ずかしいようなおかしいような思い出話です。